

(別紙様式2)

## 普及指導員調査研究報告書

課題名：「厚保くり」生産量確保に向けた取組支援

所属名：美祢農林水産事務所

担当者氏名：迫村竜也、同前咲良

### <活動事例の要旨>

#### 1 普及活動の課題・目標

山口県美祢市の「厚保くり」は代表的な県内栗産地の1つであるものの、高齢化・鳥獣被害の増加等により出荷量が減少し、消費者の需要に応えることが難しくなっている。

そこで、「厚保くり産地協議会」を母体として関係機関が連携し、生産量確保に向けた取組を支援する。

#### 2 普及活動の内容

##### (1) 関係機関が連携した活動内容の検討

美祢市、JA山口県美祢統括本部に加え、地域のコンサルティング会社及び美祢勤労者総合福祉センター等と連携しつつ、以下の取組内容につき活動計画及び進捗状況の確認、計画の修正等を協議した。

##### (2) 担い手の確保・育成

- ・新規就農希望者の就農計画作成を支援した。
- ・勤労者総合福祉センターが実施する人材派遣事業を活用し、栽培が難しくなってきた人の園地において、地域で不定期に働ける方に草刈り・収穫作業等を委託。作業時間を計測することで、農繁期の作業支援及び中間管理等農作業受委託の可否を確認した。

##### (3) 各種技術実証

- ・防除作業の省力化に向けてドローン防除の実証を行った。
- ・土壌分析を実施し、地力の確認及び今後の施肥管理の一助とした。
- ・地元大学の協力を得て、鳥獣被害軽減策を検討した。また、鳥獣被害軽減に向けた研修会を実施した。

#### 3 普及活動の成果

##### (1) 関係機関が連携した活動内容の検討

- ・月1～3回程度不定期に参集し、逐次情報交換を行うことで連帯感を持って各種取組を進めることが出来た。

##### (2) 担い手の確保・育成

- ・新規就農者を1名確保し、経営開始に繋げた。
- ・農作業受委託については、栽培を中止して草が繁茂した放任園に近い状態であったこと、農作業経験の少ない方に作業を依頼したことから、多くの労働時間を要し

た。結果、農業経験の少ない方を参集した場合、草刈2回、収穫、せん定を合わせて約50～60万円の人件費が必要となった。

- ・園地条件や作業支援を実施する方の農業経験等によって人件費は変化すると思われるが、農作業受委託の実施にあたっては ha 単位での園地を有し、人件費を補える所得の確保が必要であることが推察された。

### (3) 各種技術実証

- ・モモノゴマダラノメイガの防除を実施。実証結果は良好で8月の防除ではドローンを用いた防除が可能であることが分かった。
- ・土壌分析を実施した結果、全体的に養分不足であり、特に腐植含量が低い傾向であることが分かった。
- ・地元大学の協力の下、2園地でフィールドワークを実施し、外部有識者を招いた検討会や研修会を実施した。



ドローン防除実証



鳥獣被害対策のフィールドワーク

## 4 今後の普及活動に向けて

今年度は各種取組を開始したものの、実証に止まったことから、次年度以降は実証結果を踏まえた産地全体への普及を図る必要がある。

- ・関係機関の協議については、次年度以降は定例的に会議を開催し、進捗確認及び今後の対策等を検討し、より緊密に連携を図って産地振興を目指す。
- ・農作業受委託の実施に関わらず、営農を確立するためには ha 単位での園地が必要であり、約20a の戸別園地が多い当該産地においては、利用権設定等による担い手への園地集積の必要性が確認された。今後は園地集積の方策を関係機関で協議していく。
- ・ドローン防除及び土壌分析の実証結果をもとに、次年度以降産地の防除暦・施肥暦の改訂していく。
- ・鳥獣被害対策については、栗の生産者全戸を対象とした研修会を開催し、より効果的な防止策を地域全体で検討する。